

2年生が「かけ算九九」を練習し始めると晩秋を感じ、一人、二人と縄跳びを始めると初冬を感じるのには、教師の季節感覚だろうか。秋晴れの校庭では子供たちの元気な声、思い切り走る姿が見られる。

わずか10分でも時間があれば、校庭に飛び出して遊ぼうとするパワーは子供ならではである。

一方、教室や図書室でゆっくりお気に入りの本を読む子や友達とのおしゃべりを楽しむ子もいる。

業間や昼休みの20分の「休み時間」は、子供たちにとって貴重な時間。私は先生方に授業方法を「ああしろ、こうしろ」とは言わないが、「授業はチャイムとともに始まり、チャイムとともに終わらせてほしい」とお願いしている。チャイムが鳴った後にどんなに大切なことを言っても、半分の子供は聞いていない。子供の「貴重な休み時間」を削るほど重要なことなど、そんなにない。そして、そんなに重要なことなら授業時間内にキッチリ指導するのがプロのすべきことだからだ。

担任は「休み時間」にノート点検、授業準備、給食指導、清掃指導等に忙しい。担任でない先生方は、子供たちを見守りながら、休み時間終了後に鉄棒やブランコ、ジャングルジム、手すり等を消毒する。

WITH コロナ時代の休み時間風景を時に校庭で、時に校長室からながめている。

そして校舎内も一回り。遊ぶ友達が変わった子、外に出ることが多くなった子（減った子）、めずらしく一人でいる子…。

それとなく担任に様子を伝え、「どうしたのかなあ」と聴くのも学校運営の大切な情報である。